

五泉市小学校教育研究会 理科部の活動紹介

1 活動のねらい

授業研究や教材研究を通して、授業力の向上を図る。

2 活動内容

○教材製作研修 「第3学年『風やゴムのはたらき』で用いる教材の製作」



五泉市理科教育センター研修協力員、齋藤大祐様を講師に招き、授業に使う教材を制作する研修を行いました。

新設された『風やゴムのはたらき』単元の学習内容について、資料を基に具体的な単元プランや教材について例示していただき、その後、単元で使用する教材を製作しました。

新単元の指導をどのように行えば良いか、不安がたくさんありましたが、この研修を通して、自信を持って指導に当たることができました。

○教材研修 「県立自然科学館展示物の教材化」

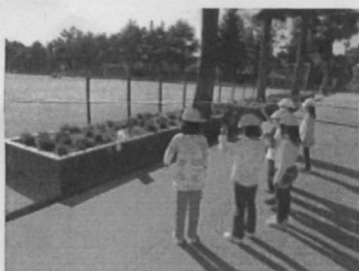


県立自然科学館を見学し、プラネタリウム番組や展示物を授業に生かすことについて検討しました。

まず、解説員の方から小学校4学年、6学年を対象として新たに制作されたプラネタリウム番組について解説を受け、番組視聴に併せて配付されているワークシートをもとに、学習への関連づけ方や生かし方を検討しました。

続いて、館内見学では、展示物の一つ一つについて、指導内容との関連を考察し、教材化の検討を行いました。子どもたちと事象の出会い方を工夫するヒントをたくさん得ることができ、大変有意義な研修とすることができました。

○授業研修 「第3学年『光であそぼう』単元の授業研究」



五泉小学校の菊池直和教諭に授業を公開していただき、授業研究を行いました。

教材として、光を当てるとオルゴールが鳴り、プロペラが回る「的当ておもちゃ」を用い、自由に遊ばせる中で日光についての見方を深めさせる授業でした。

協議では、使用した的当ておもちゃが、光の量によって音量やプロペラの回転数に差が現れるもので、児童の「もっと光を集めよう」という思いを引き出すのにたいへん適していた、と意見が一致しました。また、子どもたちが学習にかかわる共通体験をもつ活動が重要で、年々大きくなる児童の生活経験の差を補う指導の必要性が確認されました。